

#新しいチカラで
#未来をつくる

いいだ健一

けんいち

公明党 北多摩第三総支部青年部長



中野洋昌国土交通相と視察

“開かずの踏切”解消めざす



担当者から話を聞く中野国交相(中央)といいだ健一(右)

中野洋昌国土交通相(公明党)は3月15日、東京都調布市の京王線柴崎駅前を訪れ、同線仙川駅—国領駅間の“開かずの踏切”解消に向け計画が進む連続立体交差事業について、いいだ健一と共に関係者から説明を受けました。同事業は、これまで国と都が中心に進めていましたが、市側が中心に提案して早期実現できるような仕組みへと歴代の国交相が整備。中島よしお都議が中心となって地元商店街を含めた市側の協力をまとめ、いいだが今回の視察につなげました。中野国交相は「しっかり後押ししていく」と語りました。

住宅の建て替え推進全力で

中野国交相といいだは同日、調布市と狛江市にまたがる「多摩川住宅」のホ号棟を訪れ、建て替え事業について関係者と意見交換しました。ホ号棟は、老朽化や耐震強度不足などを背景に2022年から建て替え工事を進め、今年から再入居が始まっています。建て替え工事には、国交省の支援事業を活用しました。一行は、同住宅に備え付けられたエントランスやテレワークスペースを視察。中野国交相は「建て替えが進む住宅の先進事例として、今後取り組みを推進していきたい」と述べました。



Before



After

スプリングフェスタを開催

—「いいだ健一励ます会」総会—



公明党北多摩第3総支部は3月30日、調布市のグリーンホールで時局講演会を開催し、公明党の山口那津男常任顧問が出席。このほか、時局講演会でいいだ健一は青年世代の代表らとトークセッションも行いました。



山口常任顧問からの
応援メッセージは
こちら

全国のネットワークで政策実現

山口常任顧問は、公明党がこれまで高校授業料の無償化や所得税が課され始める年収「103



万円の壁」の引き上げなどを公明議員のネットワークで実現してきたとして「国民や都民の生の声を受け止めて政策実現できるのは公明党だけだ」と訴えました。

さらに、都政では公明党が中心となって私立高校の授業料無償化や、給食費無償化を国に先駆けて実施してきたと強調。「いいださんには、都政の現場であらゆる声を受け止めていただきたい」と期待を寄せました。

「住み続けたい街ナンバーワン」の調布・狛江に

トークセッションでいいだは、大学進学が決まった直後に父親がリストラに遭ったことや、就職氷河期で自身も就職浪人を経験しながら就職を勝ち取った経験を話しました。さらに、党職員時代には広報担当として能登半島地震の被災地などに随行し、現地で被災者に寄り添う公明議員の姿が議員を志すきっかけになったと強調。物価高対策や、防犯・防災対策、デジタルを活用した行政改革などに力を入れると訴え「子育てしやすく、永住したく



なる街ナンバーワンをめざします。新しいチカラで調布・狛江の未来を切り開く」と決意を語りました。



いいだのホームページ・SNSはこちらから

こちらの2次元コードを読み込むと、いいだのホームページ・SNSにアクセスできます。
いいだの活動や最新のニュースなどをぜひご覧ください。

いいだ 健一 通信
2025 第2号